



余養だより

令和5年12月22日
第3号(191通巻号)
北海道余市養護学校発行

地域とともにある学校をめざして

教頭 出口 博昭

本格的な冬の訪れとともに、2学期も今日で最後の日となりました。学校教育目標「生き生きと学び、地域社会で豊かに生活する児童生徒を育てる」の具現化に向けて、新たな教育活動を創造するべく職員一丸となって取り組んでまいりました。保護者の皆様には、感染症対策や学校行事、PTA活動などにおいて、御理解と御協力をいただき心より感謝申し上げます。

さて、2学期を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が5類になり、小学部と中学部の「学習発表会」、高等部の「高等部祭」では多くの保護者や関係者に御来校いただき、子どもたちの日常の学習の成果と輝かしい姿を見ていただくことができました。さらに学校・寄宿舎ともに子どもたちが地域へ出かけて活動する機会が一層拡大し、特にPTA活動と連動した「子どもたちと地域で学び合う学習」では、余市町の資源を活用し、各学部段階に応じた特色ある学びを推進することができました。保護者の皆様の御参加と温かな応援をいただき無事終えられたことに感謝いたします。

地域の自然や歴史、特産物などを知ることで興味・関心が高まり、学校で学んだことを地域社会で発揮し、自分自身への気づきや新たな目標が生まれ、また学校で学ぶ。このような学校⇔地域間の体験的な学びのサイクルによって、自立と社会参加の確かな力が高まり、関わり合う全ての人の豊かな人生へとつながる可能性が広がります。

余市町には子どもたちの知りたい、学びたい、関わりたい、表現したいなど感性を刺激することがまだまだたくさんあります。余市町のゆるキャラ「ソーラン武士」の頭がリンゴなのは どうしてだろう？ぜひ御家庭で保護者の方も一緒に調べてみませんか。

地域とともにある学校づくりでは、保護者や地域の方々と目標を共有し、地域と一体となって子どもたちを育てます。さらに子どもたちの学びや成長を支えるだけでなく、地域の活性化や地方創生にも貢献することが期待されます。今後もPTAや学校運営協議会の御協力をいただきながら、地域とのつながりを大切に魅力ある教育活動を推進してまいります。

今年も残すところあと僅かとなりました。3学期も児童生徒の成長や学びの姿をこれからも応援していただけたら幸いです。来年も本校の教育に御理解と御協力をお願いします。皆様、良いお年をお迎えください。

支援部

支援部では、児童生徒一人一人の障がいの状態や特性を的確に把握し、適切・効果的な教育活動を推進するため、校内研修の計画、実践、ワークショップ、寄宿舎研修などを実施しました。「給食指導研修」では、外部講師によるご講演やご助言をいただきながら「安心・安全な給食指導」を目指し研修を深めることができました。「進路指導研修」では、「高等部卒業生の進路決定までのあゆみ」について進路指導主事より、事例の紹介や後志管内の福祉サービスの現状についての情報提供を行いました。また、保護者や関係機関との連携に努め、支援会議や校内ケース会議などを行い、児童生徒の現状と課題について、支援内容・方法について共通理解を図りながら継続した指導実践の充実に努めています。

特別支援教育学内コーディネーター 戸谷田

研究部



12月13日に北海道特別支援教育センターから講師を招き、本校教員による研究授業と訪問部、分校、寄宿舎による事例発表、研究発表(報告)、公開講演会を行いました。今年度は、研究主題「論拠ある指導から、社会につながる力を育む～指導すべき課題を明確にした自立活動の研究～」をテーマに研究・協議を積み重ねてきました。本校の実践に対して学校全体が一丸となって丁寧に研究に取り組んでいるという講評をいただきました。

研究部部长 松島

小学部

～吹きガラス製作体験～

11月14日、今年も小樽市の「卒業記念吹きガラス製作体験事業」事務局にお声がけいただき、吹きガラスでガラスを作る体験をしてきました。中央バスを使い、ガラスアートN+さんで体験しました。吹いてガラスを膨らませたり、やすりをあてて口を作ったりと、緊張しつつも練習の成果を生かし、できることを頑張ってきました。小学部6年担任 平松



中学部

～校外学習を通して～

保護者と一緒にリタロードの花壇の草取りやごみ拾いの後、エルプラザの見学をし、スタンプラリーで展示物や販売商品などを探して余市町の特産品やキャラクターなどについて知ることができました。また、みつろうラップが店頭に並んでいるのを見て、自分達が作っている製品がどのように販売されているかを実感することができました。中学部主事 鎌田



高等部

～高等部祭を終えて～

生徒の皆さんが協力して準備に取り組んで、自分の役割を果たしていたことが印象に残っています。特に ICT 機器を操作してスライドを切り替える姿、台本を丁寧に読み上げて上手に司会進行をしたりする姿、見ている人を楽しませるダンスや歌を発表する姿、大きな声を出して接客し、レジアプリを使って会計をする姿がどれもこれも大変素晴らしく、今もその様子が目に浮かんできます。生徒の皆さんが感想を話す学習で、「製品がたくさん売れてよかった。」や「楽しかった。」などの発言をたくさん聞き、高等部祭の経験が成長につながったと確信しました。保護者の皆様には、製品をお買い上げいただいたことやご声援を送っていただいたことに大変感謝しています。これからもよろしくお願いします。高等部教諭 渡邊

～中央バスギャラリーに出品～

毎年、中央バスギャラリーに出品しています。なかなか、訪問部の児童生徒のみなさんの作品を見ていただく機会が少ないので、とても良い機会になっています。今年度は在宅訪問児童の作品に加え、小樽にあります北海道済生会小樽病院みどりの里に入所しながら訪問教育を受けている児童生徒の合同作品も初出品しました。

訪問部主事 工藤

訪問部



←余市養護学校ホームページのQRになります。

ホームページにカラーのものを掲載しておりますので、そちらもご覧ください。その他、余市養護学校の活動や子どもたちの学習の様子を更新しておりますので、ぜひお立ち寄りください。